IC たより

（社）国際 IC 日本協会機関紙

Building trust across the world's divides

Initiatives of Change Japan

発行年月日　2011 年 4 月 15 日
発行所　（社）国際 IC 日本協会
〒 156-0055　東京都世田谷区船橋 1-54-14
TEL：03-5429-1156　FAX：03-5429-1157
E-Mail：info@jp.iofc.org
HP：www.jp.iofc.org

頒価　1 部 100 円

9

◇目次◇

IC セミナー報告（唐津）
AFL 参加感想
高見さん・金子さん・黒木さん　寄稿
被災者支援のお願い
【予告】IC フォーラム 2011
【予告】日中韓フォーラム

このたびの東日本大震災で被災された皆様に
心からのお見舞いを申し上げます



心を育てるネットワーク第 18 回セミナー in 唐津

3 月 5 日（土）～ 6 日（日）

真青な海に迎えられ、唐津シーサイドホテルに 50 余名の参加者が集まった。和やかな雰囲気の内に、新たな出会いあり、再会を喜ぶメンバーあり、心と心が響き合うひとときを分かち合った。

基調講演での矢野弘典国際 IC 日本協会会長のお話は、会場を飽きさせないプライベートの話から企業の社会的責任まで貴重なお話しを頂いた。矢野氏はこれまでに 200 回以上論語を読んできたという論語に精通した方だが、いよいよご自宅で ' 論語塾 ' を始めたという。塾生は 2 人のお孫さんに奥様、義理の息子さん。論語を読み、そらんじることの大切さを語られた。



また、'IC と私 ' というテーマで氏は、昭和 51 年に第一回 MRA 国際会議が開かれた折に初代会長土光氏のもとで世話役を務めたこと、昭和 52 年にはスイス・コーでの世界産業人会議に東芝労使の一団として参加し感動的な体験をされ、その後の東芝発展に尽力した経緯を語られた他、ブックマン博士の名言である ' 自らのチェンジの必要性 " 誰が正しいかではなく何が正しいか ' に従って自ら行動していることや、'4 つの標準　絶対正直・純潔・無私・愛 ' の中の「絶対」とは「無限」という意味であること、さらに「静かな時間」の必要性とご自分の実践について語られ、参加者に深い示唆を与えてくれた。リーダーとして「良い会社で強い会社」を目指し努力した話等については、3 月末に出版された著書『青草も燃える』（中部経済新聞社）に詳しい。



一方、ゲストスピーカーとしては元 TBS プロデューサーの砂田実氏を迎えた。闊達な話しぶりで、植木等他その時代の多くの芸能人やプロデューサーとのエピソードを披露した。新妻であるヒロ子さんも見守る中、内輪の話題も含め当時の話を 1 時間に亘って熱心に語った。その豊富な経験談は、昨年 12 月に発行された著書『気楽な稼業ときたもんだ』（無双舎）でも知ることができる。

自分の道を開く

～IC 青年トレーニングプログラムに参加して～

チェ・ヒジン（韓国 IC）

自分が本当にやりたいことを探そうと思いました。自分だけではなく他人のために出来ることを探そうと思いました。Action for Life（以下 AfL）に参加したのは、きっと自分の次のステージにつながるアイディアと確信をもらえると信じたからです。



AfL は今回 5 回目で（AfL5 と言う）30 名の人々が 18 カ国から集まり、昨年の 11 月から 5 ヶ月の予定でインドの IC 国際センターのアジア・プラトー（Asia Plateau、以下 AP）で始まりました。最初の 2 ヶ月はインドの AP で違う国籍と背景、文化の中、我々参加者たちはどうやって一緒に働けるのかを学ぶチャンスをもらいました。この経験は 2 ヶ月の訓練のあと、4 つのチーム（アフリカ、太平洋、東南アジア、そして東欧）に分かれて、旅をする中でとても有意義な力になりました。





私は東欧チームのメンバーで、1 月からルーマニア、モルドバを経て現在（3 月）はウクライナに来て活動しています。ルーマニアでは若者の集まりをサポートするため毎週 2 回ワークショップを開いて、様々な意見を交換しました。そして地域の女性たちと行う女性平和会議のクリエイターズ・オブ・ピースが週 2 回あり、個人の平和は世界の平和につながるという基本的な真理をもう一度確かめました。2 月モルドバでは東欧地域の集会が行われ、彼らのビジョンを聞かせてもらいました。そして大学生とも定期的にワークショップを持ち、社会活動団体（NGO）のリーダたちに会ってお互いの活動や方向性を話し合いました。色々な分野で多くの人が理念を持って他人や社会のために頑張っている姿を見たことは我々にも力になり、心に強い確信を持つことができました。ウクライナでは、クレミヤという南ウクライナで 2 週間の予定で活動を始めました。ここは複雑な歴史的背景により様々な人々が集まって住んでいる多文化的な場所です。お互いをより理解し合うための活動や特に若い人々を啓発するサポート活動などが求められています。

東ヨーロッパは共産主義の影響がまだ強く、民主主義で生まれて来た私には全然違う感覚を持たせてくれたと同時に、同じく共産主義の北朝鮮についての理解に役立ちました。いつか韓国と北朝鮮が一緒になれることを願う私にはとても大切な経験となりました。そして比較的若い人たちが中心となっている東欧チーム内での活動は、どのように強いチームを作るか、どうやってチーム力を維持するかを学ぶ有意義な時間でした。これから自分なりのボランティア活動をと考えている私にとって最高の勉強になりました。

AfL は内と外の両側の旅です。つまり拠点となる IC センターとインドで学んだことを生かしてもっと自分らしくなる、多くののチェンジ change をリードする人々に会い、そこから学ぶ情熱と確信は私を成長させるのに十分でした。特に今回東欧で過した 3 ヶ月は、彼らの考え方や文化に接するとても良い機会でした。 東欧に初登場の AfL チームとして良く分からないことも沢山ありましたが、これは次の段階につながるヒントになることと思います。 The purpose of Action for life is developing new generation of change makers who want to be committed to be transformation by starting change themselves.（アクションフォーライフの目的それは、チェンジを担う新たな世代を育むこと、自らをチェンジすることによって変革を実現しようと望む新たな世代を）









国境を越えた宝物

高見　龍也（中学教諭）



国際 IC 日本協会に入会して 20 年以上が過ぎた。そして心の変革と宗教、国境、イデオロギーを超えた国際親善を常に心がけてきた。さて、12 年ほど前のことである。私は、ひょんなきっかけで日本企業に勤める中国人の方と友達になった。彼の若い頃からの趣味は、日本の現代陶芸家の作品や中国の古陶磁を収集することであった。私は彼から多くのことを教えてもらい、陶磁器への関心が高まった。ところが数年後、彼が勤める会社の経営状態が芳しくなくなり、やむなく従業員をリストラしなくてはならない状況になった。私は、友人のために自分なりに精一杯就職の心配をした。すると一ヶ月後、他の日本人のお世話で無事仕事が見つかったことを喜びながら私に 報告に来てくれた。そして、その話の後、友人は私が親身になって心配してくれたお礼にと私が以前から憧れていた中国の北宋時代の定窯の作品と思われる直径 17㎝ほどの白磁の鉢をただ同然で譲ってくれた。ところが、私が東京に行く用事があった時に、日本橋の有名な古美術店を何件か訪れたところ、似たような鉢があまりにも高価だったので驚いた。その友人は、「運が良ければそんな高いお金を出さなくても出会いますよ」と言ってくれたものの、それが本物であれば、少し就職の心配をしただけなのにそんな高価なものをただ同然で譲ってもらっては申し訳ないと、この 10 年間ずっと気になっていた。そこで、テレビ番組「なんでも鑑定団」に鑑定依頼のお手紙を書いたところ番組で取り上げてくださり、その友人に了解を得た後、テレビに出演することにした。私は、鑑定していただくと同時に、中国漁船の衝突事件以来悪化している反中国感情を鑑み、日本人以上に恩義に厚く、誠実で教養あふれる中国人がいることを多くの日本の人々に知ってもらいたかった。鑑定士による鑑定結果は、「間違いなく 950 年前の中国北宋時代の白磁鉢です」ということで、評価額は想像以上の額であった。私は長崎県に戻ると、すぐその友人に電話して鑑定結果を報告した。友人は心から喜んでくれた。そして先日半年ぶりにお会いして会食した。その場で私からの心ばかりのお礼にと友人が 10 年前から欲しがっていた日本の人間国宝の陶芸家が作った青磁の作品を受け取って頂いた。このことは私の人生で、忘れられない国境を超えた友情の思い出になった。

顔の見える世界地図を描けるように

金子　茉莉乃（上智大学卒業）



「海外に出たくない」そんな学生が増えているという。一方でグローバル化は進んでいく。海外に出たくないと「脳内鎖国」をしている同世代が、開国をするきっかけをつくるための「ペリー・プロジェクト」（Perry Project）を始めた。かつて日本を開国したペリーの名からつけたこのプロジェクトの立ち上げについては、これほど多くのヒトが国境を超えて移動できる時代に、若者がもっと海外へ出向き多様な価値観に触れ、世界に視野を広げていく必要性を感じていることに大きく起因している。また、一人ひとりが国際社会の動きに当事者意識を持たなければ、日本は活力を失っていくという危機感があるからだ。その他にも、単に世界中に溢れる多様性を知ることの面白さを多くの人に広め、出会いや発見の中で化学反応を巻き起こすきっかけをつくりたいという想いから、プロジェクトを始動させた。
私自身、ホストファミリーの一員として生まれた時から約 50 カ国の人を自宅で受け入れてきた。また、幼少の頃から現在に至るまで 16 カ国へ旅をした。グローバルな環境に育った私にとって、異文化接触や分からない言語に囲まれ過ごすことは当たり前であり、日々出会いや発見、気付きが溢れていた。そうした環境は、知らないことに対して積極的に知ろう・学ぼうとする姿勢や好奇心を育成する。自分と異なる他者との出会いの中で日本の良さを再認識したり、自己をよく知ることが出来きたりもすると実感している。だからこそ、海外に出たくないと「脳内鎖国」をしている同年代の人に、世界ってこんなに面白いんだ！と感動したり、想像を超える価値観に出会ったりして欲しいという想いが強くあった。名もない私が独り声高にそれを訴えるのではなく、既にグローバルに活躍されている方々にインタビューし、想いを発信し繋げることで一人でも多くの「脳内鎖国」を解くことがこのプロジェクトの狙いである。様々な世代の多業種の方々に、今後の日本について思うこと、なぜ世界に注目するのか、若者へのメッセージ等を伺い、ホームページを中心に発信しているが、ゆくゆくは日本を背負い、世界で活躍する仲間になれる同世代を増やしていくことを目指してプロジェクトを進め、「世界に出たい」という気持ちをつくる場所「ペリープロジェクト」が小さな世界への窓口となれるように今後も頑張りたい。
（2007 年第 4 回 IC 日中韓青年フォーラムに参加）

スイス・コー国際会議 2010 に参加して



黒木 忍　（NTT・コミュニケーション科学基礎研究所）
黒木　俊　（九州大学　経済学部）

ローザンヌから乗った登山列車で急勾配をトコトコ登っていくと角を曲がるたびに違う絶景が広がって期待が膨らんだ。会場に着くなり、現地で待機していた兼松さんと中山さんが館内を案内して下さった。お二方の紹介で，普段なかなかお目にかかることのできないような " 素敵な大人 " と食卓を囲み、お茶を片手にお話しする機会を得た。
私のルームメイトはルーマニア人と韓国人。弟のルームメイトはラトビア人。当初かなり緊張していた弟も、世界の問題を熱心に語り合う同年代の若者達が、就職や将来に共通の不安や焦りを抱えていると分かった時、とても親近感を感じ、気負うことなく接することができるようになったという。
奉仕活動のグループでは食卓の準備、食事をサポートし、片付けまで行う。チームのメンバーはイギリス、インド、フランス、スリランカ、アメリカ人。一緒にいる時間が長いので、メンバーとはとても仲良くなった。
ワークショップでは、世界に転がる困難な問題について考えよう、というテーマのチームに参加した。各々の考えを述べながら実験を交えて問題について理解するといった取り組みは物珍しかった。また、そこでは様々な国の人と、自然保護、人々の健康、武力行使の正当性・危険性など深刻な話題について議論する機会を得た。
ワークショップの最後の課題は、自分の属すグループを考える、というものだったが、日頃から何でも言いたいことを言い我がまま な強硬派だと言われている私が、最終的に出した結論は、社会に対してあまり強く発言せず控え目に、しかし日々に満足し楽しく生きている人たちとグループを組む事だった。
コー（Caux）には多様な人が集まる。優しげな人、怖そうな人、闊達な人、おとなしい人、オープンマインドな人。こうした多様性に包まれることで、相対的に自分の性分というものを、より正当に評価することが出来たのだと思う。非常に興味深い機会だった。

今年もスイス・コー国際会議 2011 へご参加ください
　会議開催全期間：2011 年 7 月 3 日 (日) ～ 8 月 8 日 (月)
（ツアー日程：7 月 25 日 (月) ～ 8 月 3 日 (水) ＊ツアーは 4/15 申込締切）
問合せ先：(社) 国際 IC 日本協会　〒 156-0055　東京都世田谷区船橋 1-54-14
TEL03-5429-1156　FAX03-5429-1157
e-mail: ebihara@jp.iofc.org　homepage: http://www.jp.iofc.org/

福島県・相馬市、南相馬市の被災者へのご支援のお願い

この度の東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の方々に心よりお悔やみ申し上げます。又、被災された皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。今回の天災の規模は余りに大きく、その被害の甚大さと広範さに愕然とさせられます。とりわけ故相馬雪香 IC 協会元会長とご縁の深い、福島県の相馬市、並びに南相馬市においては、地震と津波の被害に加え、原発からの放射能の脅威が加わる三重苦となり、多くの方々が厳しい避難所での生活を強いられている状況にあります。同時にまだご自宅で退避され、やはり物心共に厳しい状況に耐えておられる方々が多数おられます。故相馬雪香さんのお孫さんである相馬行胤さんが早速、「相馬救援隊」を開設され、支援活動に着手されました。そこで、故相馬雪香さんと関係の深い当協会もその活動にご協力させて頂くことと致しました。皆様におかれましては、既に様々な形でご援助をされておられるとは思いますが、是非、お力添え下さいますようお願い申し上げます。

○義援金について（こちらでとりまとめてお送りいたします）郵便振替にてご送金下さい。

口座記号・番号：　００１８０－０－３８２８９
加入者名：　社団法人 国際 IC 日本協会
＊　お手数で恐縮ですが、通信欄に「義援金」とご記入下さい。
＊　４月２０日（水）までにご送金頂ければ幸いです。

IC フォーラム 2011 開催

《予告》

IC 国際フォーラム 2011 開催（ハートンホテル東品川）

日時　7/2（土）～ 7/3（日）1 泊 2 日　定員 80 名
テーマ　“ アジアの未来を創る ” ～心を開いて語り合おう～
フィンランド出身のツルネン・マルテイ氏によるスピーチ「私のライフストーリー」やアジア各国地域から集い語り合うパネルディスカッション「違いを越えて」等のプログラムへ是非ご参加ください。



ツルネン・マルテイ氏
フィンランド出身

参加パネリスト予定



ミャミャ・ウィンさん
ミャンマー出身



カピラ・バンダラさん
スリランカ出身



桜井ジャヘッドさん
バングラディッシュ出身



高橋正美さん
日本

日中韓学生フォーラム 2011
日時　8/4（木）～ 8/9（火）（5 泊 6 日）募集　　大学生・院生　30 名
参加費　　6 万円予定（航空運賃込）
内容　有識者による講演、テーマによる討論・発表、伝統文化披露、韓国ソウル市内見学など
＊申込み締切（第一次）　2011 年 6 月 1 日（水）

お問合せは、IC 事務局まで（TEL03-5429-1156）

生活の中で役立つことば⑤
人と人との信頼が大切なように国と国の関係でも信頼が大切なの。とにかく相手を尊重して誠実に向き合うことから始めなきゃいけない。言いたいことはきちんと言う。相手の意見も尊重する。交わした約束は必ず守る。これって人として当たり前のことでしょ。同じことが国にも言えると思うの。
（石田尊昭著『平和活動家 相馬雪香さんの 50 の言葉』91 頁より）

〈入会のご案内〉



▲ IC ハウス（東京都世田谷区）

平和はあなたの心から　静かになって心の声を聴こう
怒りや憎しみを超えて　人を思いやる心を育てよう
一人ひとりの心から　世界の平和が生まれる

当協会は、皆様からの会費及び寄付金により運営されています。内外の未来を担う青年達の交流や育成に携わり世界の平和を求める活動に是非ご支援下さいますようお願い致します。

○正会員（議決権を行使できます）
個人会員　年額　6,000 円
法人会員　年額 50,000 円
○賛助会員
個人会員　年額　3,000 円以上
法人会員　年額　50,000 円（一口）以上

会費・寄付金の振込先
1. ゆうちょ銀行
郵便振替口座番号　00180-0-38289
口座名　社団法人 国際 IC 日本協会

2. みずほ銀行渋谷中央支店 普通預金
口座番号　162-4945790
口座名　社団法人国際 IC 日本協会

@編集後記　この度の災害では、改めて身近な人、大切な人のことを考える機会となりました。人との絆を確かなものとして IC も進んで行きたいと思います。皆様からのご意見をお待ちしております。広報委員：海老原真美、岡本さくら、高橋久子、長野清志、宮本由紀子、弓場睦